

野菜の展望

今年は暖秋・暖冬の中、露地野菜を中心に前進出荷傾向に順調な出荷になりましたが、3月に入ると全国的に曇雨天・低温推移となり、冬作と春作の端境期となり出荷量が伸び悩み、全体的に引き合い強まり価格浮上になりました。しかし4月より温暖な日が多く、生育は平年並みに戻りつつあります。また、県内産の野菜の品目入荷量も徐々に増えて、季節を彩るさまざまな商材が加わり賑わいのある売場となってきます。

季節商材の筍は石川産の入荷です。今年は表年にあたり、昨年を上回る入荷が予想されます。梅は小梅・古城梅の入荷予定ですが、暖冬の影響と雹害もあり、平年を下回る見込みです。ラッキョウは前半、高知・徳島産中心に後半より石川産の入荷も加わりますが、震災の影響もあり前年を下回る入荷と見られます。山菜類は石川産のワラビ・山ブキが上旬にカタハは下旬にピークを迎える見込みですが、震災の影響も能登地区を中心にあり、平年に比べても減少傾向となりそうです。

根菜類の大根は千葉主体に九州産、下旬からは石川産の春大根の入荷で、全体的には例年並の入荷が見込まれます。石川産については作付面積減少のため、今年も少なめの入荷量となりそうです。人参は徳島産に加えて中旬頃より岐阜産も入荷します。

葉茎菜類のキャベツは愛知産主体に石川・千葉産の入荷で、現在までの前進出荷の影響のため例年よりやや少なめの入荷が予想されます。白菜は茨城産主体の入荷です。葱は埼玉産・茨城産（夏葱）のバラものと大分産束物の入荷があります。小葱類は博多万能ねぎに愛知・静岡産の出回りです。ほうれん草は岐阜・石川・茨城・群馬・静岡産の入荷となります。岐阜・石川産は作付面積が減少しており、全体的にやや少なめの入荷を見込みます。レタスは兵庫（淡路島）・茨城産主体に中旬より長野産も加わります。ブロッコリーは前半に長崎産主体に中旬から石川産の本格出荷となり、最盛期を迎えるのは来月となりそうです。アスパラは長野・山形・石川産の出荷が増加してくる見込みです。

果菜類の胡瓜は石川産主体に群馬・高知・愛知産の入荷で、下旬から福島・山形産の入荷が加わります。加賀野菜の太胡瓜は上旬から入荷増となります。南瓜は初旬から鹿児島産の出荷が始まり、輸入品はメキシコ産主体の入荷となりますが、輸入品は諸般の事情から不安定な入荷が予想されず。茄子は高知・愛知産の中茄子、熊本・福岡産の長茄子、大阪産の水茄子、高知の米茄子、下旬から群馬産の中・長茄子が加わり豊富な品揃えとなります。トマトは愛知産主体に石川・熊本産の入荷があり、県内産は下旬より増量となります。豆類については千石豆（つるまめ）や実豌豆など県内産の入荷が始まり、各地よりインゲン・砂糖豌豆・スナップ豌豆・そら豆等の入荷があります。ただ、前段産地は例年より切り上がり早く、一時的に不安定な入荷となる恐れがあります。

県外産の菌床椎茸は順調な入荷を見込んでいますが、石川産は不安定な入荷が予想されます。JA出荷のしめじ、エノキは減産期となり、入荷が減少する見込みとなっています。しめじのホクト・ミスズライフ・雪国まいたけ等の企業物は計画減産が進み、入荷が減少する見込みです。

土物類の馬鈴薯は鹿児島・長崎産の入荷で、鹿児島産は上旬で終了し、長崎産の最盛期となる見込みです。玉葱は愛知産を始めとする府県産の入荷です。不作で少なかった昨年に比べ順調な入荷が見込まれます。

生姜は高知産の入荷で、新生姜は中旬から4kg規格へと切り替わる予定です。

《野菜第二部部長 嶋田 亮》

果実の展望

今月の果実は九州産地施設物中心に順調な生育となります。西瓜は熊本産の大玉西瓜が前半はL、後半からは2L サイズ中心の玉流れでの入荷となります。小玉西瓜については5玉を中心として群馬県からの入荷となります。

メロン類の主力産地である静岡・高知産は昨年をやや下回る入荷予想となっているものの、品質については良好と見られます。アンデス・クインシー・イエローキング等の多種の瓜類が茨城、熊本、愛知より出回り連休前から増量となる見込みです。莓は主力産地の愛知産が今月いっぱいの出荷が予想され、九州産は上旬にて終了となります。

いちじくは愛知産主力でハウス物の入荷で、入荷量は平年並みの予想です。

枇杷は長崎産主力でL中心の出回りです。上旬まではハウス物、中旬からは露地物に切替わる。本年は前進傾向で数量的には平年並みであります。

りんごは青森産のふじ、ジョナゴールド、王林主体の入荷で、40玉中心の玉流れとなります。産地在庫は少なく、入荷量は減少となって高値で推移すると思われます。

柑橘類では鹿児島産の貯蔵紅甘夏の入荷、ハウスみかんは愛知産主力の入荷となります。九州産については下旬からの入荷となるようです。

桜桃は山形産佐藤錦、紅さやかの入荷となり、昨年より7日前後遅い出荷予想となっています。

ハウス物のデラウエアは、下旬より奈良産と大阪産の入荷を見込んでいます。岡山産のシャインやGピオーネは下旬から入荷が始まります。

輸入果実のバナナではフィリピン、南米産とも安定した入荷を見込みますが、価格は高値で推移します。オレンジはカリフォルニア産ネーブルが中旬に終了し、バレンシアの販売となります。グレープフルーツはトルコ産中心で、他産地も併売となります。カリフォルニア産レモンはやや入荷が不安定で品薄となる見込みです。パイナップルはゴールデン・スウィーティオ種の入荷が見込まれます。キウイフルーツはニュージーランド産、ゴールドは順調な入荷で、サイズも小玉まで充実します。グリーンは初旬より販売スタートです。カリフォルニア産チェリーは上中旬においては早生種の入荷となり、現時点では順調な入荷が予想されます。その他、メキシコ産・ボンジュラス産ハネジューメロン、タイ・メキシコ産マンゴー、チリ産レッドグローブなどが提供できるシーズンとなります。

《果実部部長 荒木 智》